

強い思いは海をも越えて、世界へ…

太鼓坊主

『太鼓坊主』。普通に読むなら「たいこぼうず」で間違いはない。しかしこれを「てこぼうず」と読ませる和太鼓演奏集団が、蒲生にある。太鼓のことを鹿児島弁では「てこ」という。だから「てこぼうず」。その名前には「無心に太鼓をたたく童の心をもった集団でありたい」という願いが込められている。

彼らは全国的にも有名で、さまざま賞^{※1}も受賞している。現在メンバーは十三人。年に二回、元旦と十一月に、日本一の大楠の下で誰でも演奏を聴くことができる。特に十一月に行われる『どんと祭』^{※2}は、国際的なイベントである。そのプログラムの中で、彼らは伝統芸能奏者団体と共演し演奏を披露する。彼らの演奏を楽しみに、県内外から多くの人が蒲生を訪れる。そんな彼らがとても大切にしている演奏の場がある。それは隣国である大韓民国（以降、「韓国」）での演奏である。「太鼓坊主」と「韓国」、そのつながりはどのようにして生まれたのだろうか。

四十年前、当時のメンバーは太鼓好きの集まりに過ぎなかった。頼まれれば町の祭などで演奏する素人集団だった。昭和五十七年（一九八二年）、そんな彼らに転機が訪れた。町の演奏会にプロの和太鼓集団『田楽座』^{※3}が来て、演奏することになったのだ。そのすばらしさに「ハンマーで殴られたくらい」の衝撃を受けたと当時を振り返ったメンバーは言う。

「人に聞いてもらうのなら、あれくらいの演奏ができなければダメだ。聴き手の魂を揺さぶる彼らの技を身につけなければならぬ。」

彼らはそう思い、猛烈に練習した。その年の夏、田楽座が主に活動する長野県まで出かけ、一週間の合宿を行った。どうしても彼らの技を身につけられなかった。

地域の若者に元気を与え、町が活気づく、そんな演奏技術を身に付けようと必死だったのだ。そんな思いが後押ししてか、日に日に彼らはうまくなった。演奏の依頼も増えていった。

そんなある日のこと、一人の韓国の大学生が、国際交流プログラムで、蒲生に来了。名前は張承勲（チャン・スンフン）さん。「てこぼうず」のメンバーの一人の家にホームステイすることになった張さんは、韓国の太鼓の奏者だった。さっそく「てこぼうず」の練習にも参加した。

「とても素晴らしい演奏ですね。私の国にはない響きです。もっと多くの韓国人に聞いてもらいたいです。」

と、練習後に張さんは言った。

「てこぼうず」のメンバーも「自分たちの曲を韓国の人たちに聞いてもらえるなんて、それは願ってもないことだ。」と思ったと言った。

張さんの「わたしの大学で演奏会を開きましょう。私が先生にお願いしてみます。」という言葉だけを頼りに、メンバーは、韓国に渡ることにした。

張さんは、自分の通う大学の先生に、大学での演奏会の開催をお願いしてくれた。しかし先生からの協力はなかなかもらえなかった。当時^{※4}、韓国では日本のテレビ番組や楽曲などの放映は禁止されている時代だった。強く日本を憎む人も少なからずいた。抗議のため日本大使館に石が投げ込まれることもあった。先生はメンバーの身の安全を考え、簡単に了承するわけにはいかなかったのだ。

演奏会の開催の道は閉ざされたままだった。わらにもすがる思いで、在韓日本国大使館へ、演奏会開催の援助をお願いしに行った。大使館職員はいきよりの訪問に驚いたが、今後の日韓関係のために大切なものだと感じ、応援してもらえることになった。張さんの大学にも働きかけ、そこを含めて三力所で演奏会が開けることになった。

昭和六十三年（一九八八年）、韓国民俗村で最初の演奏が始まった。厳しい反響だった。ソフトクリームのコーンを投げ込まれもした。しかし彼らは自分たちの曲を一心に演奏した。

演奏が進むにつれ、会場の空気が変わった。冷たく刺すような空気から、彼らの音を受け入れる温かいものに変わった。演奏が終わることに拍手の音も大きくなっていった。最後の曲になった。観客は立ち上がり、演奏者を取り巻き、和太鼓の響きに合せて、韓国の踊りを踊り始めた。彼らの音が韓国の人を受け入れられた瞬間だった。メンバーの胸がジーンと熱くなった。演奏会は大成功だった。韓国との交流の扉が開かれたのを彼らは感じた。

太鼓坊主（てこぼうず）



日本一大くすどんと秋祭り



『どんと祭』での国立伝統芸術高等学校（ソウル）の皆さん



※1 平成十三年（二〇〇一年）「サン

トリー地域文化賞」受賞など

※2 始良市蒲生町で毎年十一月に行われる「日本一大楠どんと秋まつり」のこと。蒲生では『どんと祭』の名で親しまれている。

※3 長野県に本拠地を置く歌舞劇団 田楽座

※4 日本は第一次世界大戦まで朝鮮半島植民地支配していた。韓国人の中には反日感情を持った人も少なからずいる。そのため一九八〇年代、日本の漫画や映画、音楽など、大衆文化を法令で規制してきた。